

I 策定にあたって

岡山市は、岡山市第六次総合計画（平成28年度～令和7年度）に基づき、豊富な地域資源をいかしながら、都市に躍動感を創出し、住みやすさと安全・安心に磨きをかけることにより、都市の総合力を高めてきました。

この間、人口は令和2年国勢調査で過去最高の72万4千人となり、また、市内総生産¹をはじめ経済指標も順調な伸びを示すなど、岡山市のまちは着実に成長を続けています。

しかしながら、全国的に加速する人口減少・少子高齢化は、岡山市でも例外なく進行しており、人口減少の抑制と適応を図りながら住みやすさと都市の成長をともに実現する持続可能なまちづくりをより一層深化していく必要があります。

また、地球規模で進む気候変動やそれらに起因する大規模自然災害への対応、国内外での岡山市のプレゼンス²向上など、視野を世界に広げた取組や、急速に進化するデジタル技術のまちづくりへの実装等が求められています。

さらに、価値観が多様化する中、市民誰もが自分らしく活躍でき、希望がかなう社会づくりや、より良い暮らしを心豊かに送るための環境づくり、地域への愛着と誇りの醸成を図ることなどが重要となっています。

市政を取り巻く状況が絶えず変化し続ける中、岡山市がめざす理想のまちの姿を実現するためには、市民をはじめ多様な主体との協働が不可欠です。

このため、まちの将来像を自治の主役である市民と行政が共有し、諸課題の解決に向けてともに考え、行動するための羅針盤として、新たな総合計画を策定します。

II 長期構想の目的・期間

長期構想では、岡山市のめざす「将来都市像」と、それを実現するための「まちづくりの基本的な視点」を定めます。

長期構想の期間は、令和8（2026）年度から令和17（2035）年度までの10年間とします。

用語説明

¹ 市内総生産：一定期間内（1年間）に市内の生産活動によって生み出された付加価値の総額で、出荷額、売上高などの産出額から原材料費や光熱水費などに当たる中間投入を差し引いたもの。

² プレゼンス：一般的には「存在感」を意味するが、「特定の状況における影響力」などの意味でも使われる。

Ⅲ

岡山市の強みと特性

01 高次都市機能³の集積、中四国の交通のクロスポイント

- 岡山市の人口は岡山県の4割近くを占め、圏域の中心都市として、商業・業務、医療・福祉、教育・文化、コンベンション⁴等の高次の都市機能が集積しています。近年は民間企業の本社数等が増加し、経済活動における拠点性が一層高まっています。
- 明治時代の第六高等学校、岡山医科大学、戦後に開設された岡山大学等、古くから高等教育機関が設置された歴史があり、現在でも、政令指定都市の中で人口当たりの大学数・大学生数が多い、中四国地方の学術・研究の拠点都市となっています。
- 近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントに位置し、高速道路網、鉄道網、航空網など、全国的にも非常に優れた交通の広域拠点性を有しています。

02 災害が少なく温暖な気候と豊かな自然環境、豊富な医療・介護資源

- 岡山市は、年間を通して気温や天気安定した恵まれた気候で、全国でも特に降水量が少ないことから、「晴れの国」と呼ばれており、また、直下に活断層が存在せず、自然災害が少ない都市としても知られています。
- 広大な市域の中に、北部の吉備高原とそれに連なる緑濃い山並や棚田の原風景、市街地周辺の操山・龍ノ口山、南部の干拓により生まれた肥沃な田園地帯、市域を貫流し瀬戸内海に注ぐ旭川・吉井川など、豊かで多様性にあふれる自然環境を有しています。
- 岡山藩医学館をルーツとする岡山大学病院など、医療分野の最先端の研究や、高度な医療サービスの提供が可能な医療機関が集積するとともに、介護サービス事業所も多く存在し、豊富な医療・介護資源の蓄積が市民の安心を支えています。

03 先人から引き継ぐ固有の歴史・伝統・文化

- 古代に吉備と呼ばれていた地域の中心部が現在の岡山市域にあたり、広い平野と三大河川をはじめとした水源により、豊かな生産力を備えていました。さらに、瀬戸内海交易の拠点としても繁栄し、3世紀後半から大型古墳が築かれ、5世紀初頭には大和王権の大王墓と同等規模の「造山古墳」が築かれました。吉備は、大和とともに倭国⁵を統治していたと考えられます。
- 岡山に古くから伝わる「吉備津彦の鬼退治の神話」は「桃太郎伝説」の原型ともされており、そこに登場する鬼神「羅羅（うら）」は、今日の夏まつり「うらじゃ」の名前の由来となっています。
- 戦国時代には宇喜多直家が岡山を本拠として備前と美作を統一、子の秀家が今に残る岡山城を築き、親子2代で城下町を整備し、小早川、池田の2家によって岡山城の拡幅と城下町の充実が図られました。その後、池田光政は藩士や庶民の教育のための学校を設立し、光政、綱政の2代に仕えた津田永忠は、日本三名園の一つとして名高い岡山後楽園の築庭のほか、百間川の築造などの治水事業、沖新田などの干拓を行いました。さらに、明治、大正、昭和と続いた児島湾の干拓により、岡山の大地は広がりました。
- こうした歴史を背景に、古墳、城跡などの数多くの国指定史跡を有し、その数は、政令指定都市では京都市に次いで2番目に多くなっています。
- また、固有の歴史資源を大切にしながら新たな文化の創出に向けた取組も進めており、令和5（2023）年に文化芸術創造・発信拠点として開館した「岡山芸術創造劇場ハレノワ」は、市内外の多くの人々が鑑賞に訪れるだけでなく、新しい文化芸術が生み出される場にもなっています。

用語説明

³ 高次都市機能：商業・業務、教育・文化、福祉・医療などの都市機能のうち、日常生活の圏域を越えた広範囲の人々を対象にし、質の高いサービスを提供する機能。

⁴ コンベンション：国際機関・団体、学会等が主催又は後援する会議。

⁵ 倭国：弥生時代から古墳時代にかけての日本の呼び名。

04 第3次産業中心の産業構造と全国有数の農業都市

- 岡山市の市内総生産をみると、第3次産業が全体の約8割を占めており、その中では、「卸売業・小売業」が最も高い割合を占めています。また、第2次産業の割合は約2割を占め、政令指定都市平均と比較しても高く、全産業の中で「製造業」の市内総生産に占める割合が最も高くなっています。
- 全国有数の農業都市であり、恵まれた気候と豊かな自然をいかして、ブランドとして認知されている白桃、マスカット、ピオーネのほか、千両なす、黄にらなどの多彩で質の高い農産物が生産されています。また、特産の岡山のりは全国に出荷されています。

05 活発な地域活動、世界をリードするESDの取組

- 明治時代の石井十次による日本初の本格的な孤児院の開設、今日の民生委員⁶制度のモデルとなった大正時代の岡山県済世顧問制度⁷の創設など、岡山市には全国に先駆けた地域活動の歴史があります。こうした福祉や地域を大切にする精神が今に受け継がれており、住民自治の中核となる町内会等の地域団体やNPO法人等の市民活動団体が、安全・安心な地域づくりや地域の課題解決において重要な役割を果たしています。
- 岡山地域は、持続可能な社会の担い手づくりを進めるESD⁸の地域拠点(RCE⁹)として、平成17(2005)年に国連大学¹⁰から世界で最初に認定を受けています。その後の継続的な取組の中で、平成26(2014)年の「ESDに関するユネスコ世界会議」、令和7(2025)年の「グローバルRCE会議」等の国際会議の開催地に選定されてきました。また、国際的な賞である「2016年ユネスコ/日本ESD賞」を日本で初めて受賞し、平成30(2018)年には岡山市が国のSDGs¹¹未来都市¹²の一つに選定されるなど、ESD、SDGsの先駆的な取組が国内外から高く評価されています。

用語説明

⁶ 民生委員：厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努めるボランティア。

⁷ 岡山県済世顧問制度：大正6年5月12日に岡山県で、当時の笠井信一知事が「済世顧問設置規程」を公布し創設した、貧しい人々を支援するための制度。民生委員制度の起源とされている。

⁸ ESD：Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）の略称。現代社会の抱える環境、人権などの課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、持続可能な社会を創造していく新たな価値観や行動を生み出すことをめざす学習や活動。

⁹ RCE：Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点）の略称。国連大学サステイナビリティ高等研究所が地域レベルでのESD活動を推進するために認定している。

¹⁰ 国連大学：国連機関の一つで、国連とその加盟国が関心を寄せる緊急性の高い地球規模課題の解決に取り組むため、共同研究や教育を通じて寄与することを使命とする。

¹¹ SDGs：P23の本文参照。

¹² SDGs未来都市：SDGsの達成に向けた優れた取組を提案する自治体。内閣府地方創生推進事務局が公募、選定する。

IV 時代潮流と課題認識

01 時代の変化や要請

① 少子高齢化・人口減少の加速

- 日本の総人口は、令和38（2056）年には1億人を下回り、少子化の加速により高齢化率が大きく上昇することが見込まれます。また、若年層を中心とした人口の東京圏への一極集中が進み、地方の人口はますます減少することが懸念されています。
- 岡山市では、これまで順調に人口が増加し、令和2年国勢調査では過去最高の72万4千人となりましたが、近年は自然減が拡大しており、将来推計によると、既に人口減少局面に突入しているものとみられます。高齢者人口割合の増加は全国よりも緩やかと見込まれる一方で、合計特殊出生率は人口を維持する水準とは大きな隔たりがあり、中長期的な生産年齢人口の減少への対応が大きな課題となっています。また、地域ごとに人口減少や高齢化のスピードが異なるなど、市内においても人口の偏在が進行しています。
- 岡山市における若年層の動向をみると、進学や就職を契機として、県内、中四国からは転入超過にある一方、東京圏、大阪圏への転出超過が続いています。
- このような状況の中では、これまで進めてきた持続可能な社会の構築に向けた経済社会システムの転換をより一層深化させるとともに、岡山市への新しい人の流れをつくることにより、地域経済の成長と生活の質の向上の好循環を創出していく必要があります。
- 特に、若者等の大都市圏への人口流出への対応として、若者や女性にも選ばれる魅力的で働きがいのある仕事の創出や地域社会でのアンコンシャス・バイアス¹³（無意識の思い込み）の解消等が重要となります。また、生活の安全性や利便性の向上に加え、まちの居心地の良さ、創造性、期待感、高揚感など、多様な要素にあふれる質の高い都市環境づくりを進める必要があります。それらを通じて、県内や中四国圏域からの進学や就職の受け皿となり、大都市圏への人口流出を防ぐダム機能を一層発揮することが求められています。

- さらに、個人の多様な価値観の尊重を前提として、若い世代の結婚や出産の希望がかなえられるよう社会全体で支えるとともに、安心して子育てができる環境づくりを進めることが求められています。

② 暮らしの質的向上・多様性への関心の高まり

- 近年、物質的な豊かさだけでなく、暮らしの質や精神的な充足感、健康などを含めた幸福感をあらわす「ウェルビーイング」への関心が高まっています。また、あらゆる世代がライフステージに応じた学びの機会を得て、個性や能力を最大限に発揮し挑戦できるまちづくりが求められています。
- 都市を車中心から人中心の空間に変え、居心地が良く、歩きたくなる環境を整えることにより、市民の心身の健康に資するとともに、様々な人が集い活発な交流を広げる場として、多様なつながりの構築や新たな価値の創出を図ることが重要になっています。
- 社会が成熟し、価値観が多様化する中、年齢・性別・国籍・障害の有無など、一人ひとりが持つ違いを認め合い、自分らしく活躍できるよう、包摂的¹⁴で多様性に富んだ「誰一人取り残さない」地域社会を実現することが求められます。また、地域コミュニティでは、緩やかなつながりの中でお互いを知り、安心感や信頼感の醸成を図ることが重要になります。

③ デジタル技術の急速な進展

- IoT¹⁵やAI等のデジタル技術は急速に進展し、人々の生活や企業活動に大きな変革をもたらしています。デジタル技術の有効活用は、人の暮らしをより豊かにするだけでなく、複雑化・多様化する地域課題の解決や新たな価値の創出への貢献が期待されることから、地域や社会におけるデジタル技術の実装を担う人材の育成が急務になっています。
- 労働力を補完する観点からは、AI等先端技術の活用による高効率化や高付加価値¹⁶化の促進が必要であることから、産学官連携や業種間連携によるイノベーション¹⁷の共創¹⁸に向けた取組が求められます。
- 岡山市が住みやすく、活力のあるまちとして持続的に発展していくためには、スピード感を持って地域社会や行政サービスのDX¹⁹を推進することが重要になります。

④ グローバル化の進展

- デジタル技術の発展等により、「ヒト、モノ、カネ、情報」の流れが地球規模で拡大する一方で、地政学リスク²⁰の高まりなど国際経済情勢の不確実性が高まっています。
- インバウンド²¹が増加し、訪日客の層の拡大により観光ニーズも多様化する中、岡山市が中四国地方の観光の拠点となり、他都市との連携のもと、圏域全体の周遊を促進することが求められています。
- また、外国人労働者や留学生等、海外からの人材の受入れも今後ますます増加する見通しであり、多文化共生の推進が重要になります。
- さらに、令和5（2023）年に文学分野として日本で初めての加盟となった「ユネスコ創造都市ネットワーク²²」等の海外諸都市とのつながりをいかしながら、国際的な役割を發揮することにより、国内外での岡山市のプレゼンスをより一層高めていく必要があります。

⑤ 持続可能な環境の保全

- 「気候危機²³」とも言われる現在の気候変動の状況は、生物多様性の損失をはじめとする環境問題のみならず、経済活動や社会生活に大きな影響を与える問題として認識されています。そうした中、世界各国で産業・社会構造をクリーンエネルギー²⁴中心に転換し、脱炭素²⁵と産業競争力の両立をめざす取組が加速しています。
- 国は令和2（2020）年に、2050年までに温室効果ガス²⁶の排出を全体としてゼロにする目標を掲げ、岡山市も令和3（2021）年に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、同目標の達成に向けて各種取組を進めています。
- 質の高い暮らしの基礎となる豊かな自然環境を将来世代に引き継ぐためにも、ESD活動等の蓄積をいかして、持続可能な社会を構築することが求められます。

⑥ 大規模自然災害への対応

- 近年の急激な気候変動により、台風や豪雨等による風水害が激甚化し、岡山市に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨をはじめ、全国で記録的な大雨による大規模被害が頻発しています。また、南海トラフ巨大地震は、今後30年以内の発生確率が最も高い「Ⅲランク」とされており、発生の切迫性が非常に高い水準にあります。
- 岡山市においても、来るべき災害に備え、国土強靱化²⁷や流域治水²⁸の考え方のもと、ハード・ソフト両面から総合的な防災・減災対策の一層の推進が求められています。また、道路や橋りょう、上下水道等のインフラは、今後20年間で建設後50年以上が経過するものの割合が急増する見込みであり、耐震化を含め、戦略的な老朽化対策を行うことが急務となっています。

02 市民の課題認識

世代を超えたつながりの醸成、「岡山にしかない魅力」の再認識

- 「岡山市に住み続けたい」、「住んでいる地域に愛着がある」と思う市民の割合はいずれも7割以上となっており、住みやすさへの評価や愛着の醸成が一定程度進む一方で、全国からの認知度は必ずしも高いとは言えない状況にあります。都市ブランドの向上に加え、地域への愛着や関心をさらに高め、対外的に発信することが課題となっています。
- 近年、地域資源をいかして地元を盛り上げたいという熱意の高まりや、スポーツ界の活躍と盛り上がりなど、まちへの愛着や誇りの醸成につながる動きが活発になっています。
- また、総合計画策定に向けて実施したワークショップでは、更なる賑わいや活気を期待する声や、世代を超えた交流の促進や多様なつながりの醸成、まちに誇りを持つことを大切にしたいという意識の高まりが見られたところです。
- このような中で、岡山市固有の地域資源を再認識し、ともに学び合い、それらをいかした取組を進めつつ、新たに創り上げた「岡山にしかない魅力」を積極的に発信することにより、国内外から注目される誇れるまちづくりを進めることが求められています。

用語説明

- 13 アンコンシャス・バイアス：人間が無意識のうちに抱いている思い込みや偏ったものの見方などのこと。例としては無意識のうちに年齢や性別、所属する組織や肩書等で相手を判断することなどが挙げられる。
- 14 包摂的：こどもから高齢者、障害者、女性や若者、外国人などあらゆる年齢や背景を持つ人々を全て包み込み、誰一人取り残さないという考え方。
- 15 IoT：Internet of Things (モノのインターネット) の略。家電などあらゆるモノをつなげ、自動化等による新たな付加価値を生み出すというコンセプトを表した語。
- 16 付加価値：企業等の生産活動によって新たに生み出された価値のことで、生産額から中間投入額を差し引くことによって算出できる。
- 17 イノベーション：物事の「新結合」、「新機軸」、「新しい切り口」、「新しい捉え方」、「新しい活用法」を創造することにより、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと。
- 18 共創：市民、行政、企業、団体など、様々な立場の人々が対話をしながら、新しい価値を共に創り上げていくこと。
- 19 DX：Digital Transformationの略。(「trans」には「cross」の意味があり、「cross」は「X」と表現されることから、DXと略記される。) ICT (情報通信技術) の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
- 20 地政学リスク：特定の国や地域における政治的・軍事的・社会的な緊張の高まりが、地理的な位置関係によって、周辺の地域や世界経済の先行きを不透明にするリスクのこと。
- 21 インバウンド：外国人が日本へ旅行で訪れること、又は訪れた外国人旅行者。
- 22 ユネスコ創造都市ネットワーク：2004年に発足した、経済的、社会的、文化的、環境的側面において、創造性を持続可能な開発の戦略的要素として認識している都市間の協力を強化することを狙いとした国際的な枠組み。岡山市は2023年10月に「ユネスコ創造都市ネットワーク・文学分野」に日本で初めて加盟した。
- 23 気候危機：人類や全ての生き物にとっての生存基盤を揺るがす危機的状況にあるとされる気候変動を言い換えた表現。
- 24 クリーンエネルギー：環境への負荷を最小限に抑える、又はほぼ無い形で生産されるエネルギーのことを指すが明確な定義はない。
- 25 脱炭素：二酸化炭素の排出に焦点をおいた言葉で、二酸化炭素等の地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出をゼロにすること。
- 26 温室効果ガス：人の活動に伴って発生する二酸化炭素、メタンなどの物質。
- 27 国土強靱化：地震や津波、台風などの自然災害に強い国づくり・地域づくりをめざす取組。
- 28 流域治水：気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえて、河川流域のあらゆる関係者(国・都道府県・市町村・企業・住民等)が協働して流域全体で行う治水対策。

“わくわくする”桃太郎のまち岡山 ～つながり 輝き 幸せ実感～

- 岡山市は、これまでのまちづくりにおいて、喫緊の課題であった子育て環境の充実をはじめ、まちの活力創出、地域振興、健康・福祉や安全・安心の充実など、あらゆる分野で直面する課題の一つひとつを克服し、市民の最大幸福の実現と都市の持続的な発展に向けた「変化」を創り出してきました。
- 時代の転換期にあり、少子高齢化・人口減少の加速をはじめ市政の課題がますます複雑化・多様化する中、更なる成長に向けて、交通の至便性や多様で豊かな地域資源等の岡山市の強み・特性を最大限にいかしつつ、「わくわく感」をさらに高めるまちづくりを進めることにより、都市の総合力を一層高め、10年、20年先へとつながる未来を切り拓いていきます。
- そのため、地域固有の歴史・文化や、芸術、スポーツ等をいかした様々な交流・つながりの促進、チャレンジするすべての人や事業者への後押し等を進めます。これらを通じて生み出される新たな魅力や価値が、岡山市を一層住みやすく、そして人の心が自然と弾む、より良いまちへと進化させることにより、愛着と誇りを持てる「桃太郎のまち岡山」の実現をめざします。

「つながる力」でひと・まち・地域が輝く

- これまで築き上げてきたまちや地域の力、経済の力、そして人の力をつなぎ高めることによって、生活する場所と楽しむ場所との調和を大切にしながら、暮らしの質とまちの活力をさらに向上させ、未来に向けて成長を続けるまちづくりを進めます。
- 中四国をつなぐ瀬戸内の中核拠点都市として圏域の成長をリードしながら、歴史・文化、芸術、スポーツ等が持つ力をいかして、地域や世代を超えたつながりを深め、多様な人材が集い交流する中で、それぞれの知恵や経験、思いや情熱を交差させ、新たな魅力や価値を創造するまちをめざします。
- あわせて、日本の昔話として知られ、全国的に知名度が高い「桃太郎」に代表される、過去から今日まで連綿と紡がれてきた「岡山にしかない魅力」を再認識し、磨き上げ、積極的に発信します。
- まちの主演である市民とめざすまちの姿を共有し、その実現に向けて協働・共創して持続可能で活力ある地域づくりを進めます。

一人ひとりが自分らしく暮らせ、幸せを実感できる

- 岡山に生まれ、育ち、学び、働き、活動する一人ひとりが、その人らしく生きるための選択肢が用意され、互いに多様な価値を尊重し、支え合う中で、誰もが希望や夢の実現に向かって取り組むことのできる、心豊かな「人中心」のまちづくりを進めます。
- 都市と自然の魅力が調和するまちの特性をいかし、仕事や地域での様々な活動、趣味や学びの機会等を通じて、豊かなライフスタイルを実感できる環境を創出します。

「わくわく感」あふれる、より誇れるまちへ

- 岡山市の魅力である「住みやすさ」に一層の磨きをかけつつ、まちの「楽しさ」を充実させ、「わくわく感」をさらに高めることにより、魅力と活力にあふれ、誰もが幸せを実感しながら安心して暮らせる、より総合力の高いまちを実現します。あわせて、国内外でのプレゼンスを高めることにより、市民のまちへの「愛着」を深め、住み続けることへの「誇り」を高めます。
- このような岡山市の姿を新たな求心力として、市外からさらに多くの人や企業を惹きつけ、呼び込む好循環を生み出し、国内外から選ばれるまちをめざします。

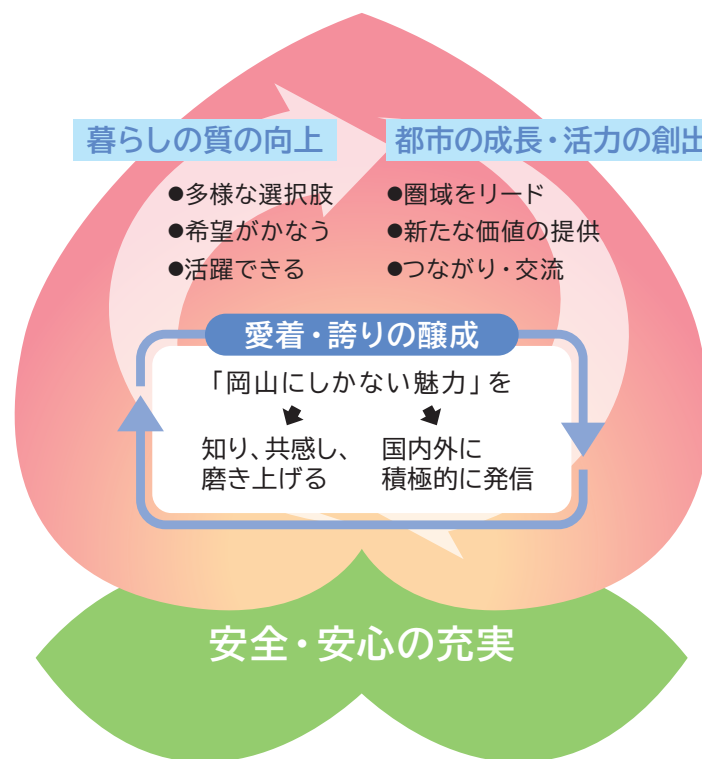
〔 将来都市像コンセプト 〕

“わくわくする”桃太郎のまち岡山

「つながる力」で
ひと・まち・地域が輝く

一人ひとりが自分らしく暮らせ、
幸せを実感できる

「わくわく感」あふれる、
より誇れるまちへ



VI

まちづくりの基本的な視点

- 将来都市像の実現に向け、以下の4つの「まちづくりの基本的な視点」を大切に各政策分野の取組を進めます。
- 「暮らしの質の向上」と「都市の成長・活力の創出」の二本の柱の好循環を生み出しながら、これらの基盤となる「安全・安心」を充実させることにより、魅力と活力にあふれ、市民の「愛着と誇り」を高めるまちづくりを進めます。

視点① 暮らしの質の向上

- あらゆる世代の市民が、一人ひとりの違いを認め合い、互いの権利や考え方を尊重しながら共生し、それぞれのライフステージにおける希望がかなうまちづくりを進めます。
- 教育・文化・医療等の都市機能の充実や、子育てと仕事の両立がしやすい環境など、「住みやすいまち」としての魅力をさらに高めることにより、市民誰もが心豊かにいきいきと暮らせるまちづくりを進めます。
- 未来を担う子どもたち一人ひとりが将来に夢と希望を持って健やかに育つよう、子ども・若者の権利を尊重し、最善の利益を追求します。
- 若者、女性がそれぞれの望むライフプランを実現し、未来に希望を持って暮らし、働き、活躍でき、幸せを実感できる地域づくりを促進します。
- 人生100年時代を迎える中、誰もが生涯にわたる学びを重ね、住み慣れた地域で互いに支え合いながら、健康にその人らしく暮らせるまちづくりを進めます。

視点② 都市の成長・活力の創出

- 人口減少に伴う経済規模の縮小が見込まれる中でも、まちの「稼ぐ力」を一層高めるとともに、地域内における経済循環²⁹を高めることにより、経済を持続的に成長させ、圏域全体の活力の創出へとつなげます。
- 市内事業者の様々なチャレンジによる高付加価値化の促進、賃金向上への後押し等により、更なる収益向上と消費の拡大による地域経済の好循環を創出します。また、国内外から人や企業を呼び込み、地域経済に新たな価値を生み出します。
- 文化・芸術、ESDなど様々な国内外との多様な交流を進めることにより、岡山市の国際的なプレゼンスを高めます。
- まちなかでは、都市機能の充実や歴史・文化、芸術、スポーツ、緑と水などの魅力を高め、賑わいの創出を進めるとともに、観光・MICE³⁰、ビジネス等を通じた交流を活性化させ、都市の成長をけん引します。
- 各地域では、歴史・文化、自然、食など、それぞれが持つ独自の価値を市民とともに磨き上げて発信し、活力ある地域づくりを進めます。また、地域とまちなかとの結びつきを強め、人・もの・情報の双方向の流れを活性化させるとともに、地域とまちなかのバランスのとれた発展に意を用いながら、それぞれの賑わいや魅力を岡山市全域へと波及させます。

用語説明

²⁹ 経済循環：家計・企業・政府などの経済主体の間で、財やサービス、お金（所得・支出）が繰り返し回る仕組みを指す。

³⁰ MICE：企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、コンベンション（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。

視点③ 安全・安心の充実

- まちづくりの土台となる「安全・安心」を充実させるとともに、豊かな自然環境と質の高い都市機能のどちらも享受できる都市特性を高めることにより、市民が日常生活の中で安らぎを感じながら、心豊かに暮らせる環境を整えます。
- 自然災害への備えに万全を期すため、都市基盤の計画的な整備・更新等を進めるとともに、一人ひとりの防災意識と地域での共助の基盤強化を進め、災害対応力を高めていきます。また、地域のつながる力を高めつつ、地域防犯力を強化することにより、暮らしの安全・安心を確保します。
- 市民の暮らしを支える拠点の形成や交通ネットワークの充実、景観の保全・活用や身近な生活環境の改善等を通じて、安全で快適・便利に暮らせるまちづくりを進めます。
- 気候変動への緩和と適応の両面から、脱炭素化や自然との共生、循環型社会³¹の構築に向けた取組を地域社会全体で実践することにより、自然環境と調和した豊かな暮らしを次世代に継承します。

視点④ 愛着・誇りの醸成

- 幸福度の高い暮らしとまちの更なる活性化を両立させ、岡山市が未来に向けて進化し続けるまちづくりを進めるため、市民をはじめ様々な主体がまちづくりに関わり、ともに考え、ともに行動しながら、協働・共創して各種取組を推進します。
- このような取組を進める中で、それぞれの地域や岡山のまち全体の特性・個性への理解を深め、互いに共有し、これらを「まちの魅力」として積極的に発信することにより、国内外での認知度を高め、市民の岡山への愛着と誇りの醸成につなげます。
- こどもの頃から岡山の豊かな自然や固有の歴史・文化を学び親しむことにより、地域を知り、地域を大切に思う心を育みます。また、歴史・文化、スポーツ等が持つ「つながる力」をいかし、様々な交流・連携を深めて、まちの活性化や一体感の醸成につなげます。
- 市民一人ひとりのまちへの関心の高まりが、地域づくり活動の活性化やまちへの愛着の高まりへとつながり、更なるまちの魅力と活力が創出されることにより、市民誰もが住み続けたいとなる、人に薦めたいとなる、より誇れるまちの実現をめざします。

用語説明

³¹ 循環型社会：天然資源の消費の抑制を図り、もって環境負荷の低減を図る社会。